

しつけについて

なかなか言う
こと聞かなくて…

しつけて大切

そして
ときどき大変

親もときどき
まよっちゃう

できるだけ心おだやかに取り組みたいのは
皆一緒。

しつけについて考えてみましょう。



しつけてなんでしょ？

あらためて、「しつけ」ってなんでしょ？

子どものこころの専門家、児童精神科医の佐々木正美先生*1は、

しつけとは、社会のルールや文化を
子どもに教え伝えること

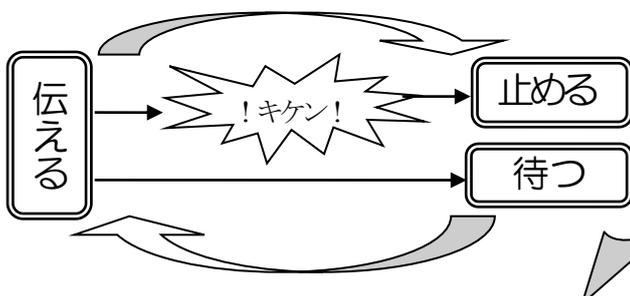


伝え方が大事！

であり、
その伝え方が大事である
とされています。

しつけのポイント

- ☆ うまくいかなくても繰り返し **伝え続ける**
- ☆ 危険を伴う場合は、迷わず **止める**
- ☆ 子どもが理解してできるようになるまで **待つ**
(子どもがすぐにできなくても**あせらない**)



子どもはしつけの場面を通じて

「やりたい vs やってはダメ」

「やりたくない vs やりなさい」

という葛藤を体験しています。



表面的には「親」とのぶつかり合いですが、
内面では「自分の気持ち」と奮闘中なのです。



そんな子どもを見守りながら「自分の気持ち」を
うまくコントロール出来た時には
たくさんほめてあげてくださいね。

困ったり迷ったら、相談してみよう

お子さんの個性はさまざま。色々工夫してみたけれど、
どうもうまくいかなくて…という時は、地域
子育て支援センターや母子保健課に気軽に相談して
みてください。お子さんの個性にあった接し方を、
一緒にさがしてみましょ。

参考文献*1：佐々木正美「子どもへのまなざし」, 福音館書店、1998



八千代市イメージキャラクター「やっち」

～子育て中よく出会う場面を例に～

☆伝える・伝え続ける

ことばで伝えたりやってみせて

⇒ できたらほめる！

⇒ うまくいかなくても、くり返し伝える

例) お友だちとおもちゃの取り合いなどでもめていたら、「貸してあげようね」「貸して、と言えるかな」といった言葉かけをしたり、親が手本となって上手なやりとりの見本を見せましょ。うまく真似できたら、たくさんほめることが大切。

☆止める

①止める ②防ぐ ③避ける

例) 「たたく」「ものを投げる」など危険なことをしそうな時は ①すぐに止め、②いけないことを伝え、順番を待つ・貸してほしいと言うといった適切なやりとりを教えます。まだ理解できないようであれば、③場所を変えて子どもの関心をそらせたり、気分を変えます。

☆待つ+あせらない

例) 「自分で靴をはく！」など、まだできないことをやりたいと言い張った時は、なるべく待ってあげましょ。出来なくても焦ることなく手伝ってあげましょ。子どものチャレンジ精神を大切に。時間に余裕をもつことも大事。